



ニューヨーク
補習授業校
学校だより

日本語を話す仲間と日本語で学ぶ補習校

補習校協育



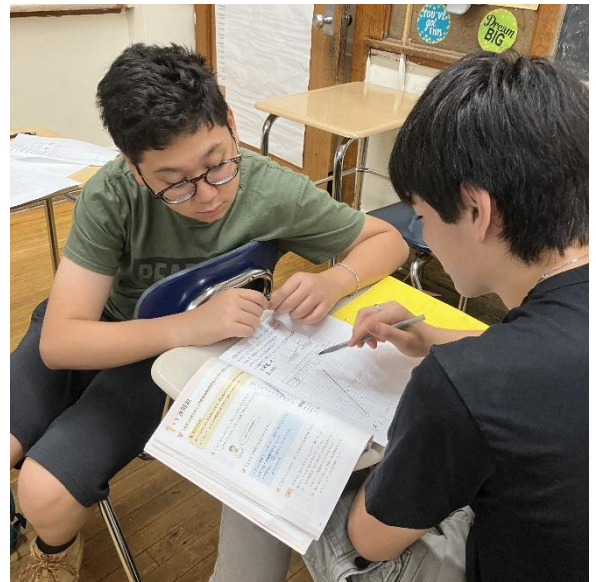
令和7年(2025年)6月20日 第12号 校長 小島 昇

日本語を話す仲間と 日本語で学ぶ土曜日(6/14)

教師の研修会で「めあてとふりかえり」「日本語を話す仲間と日本語で学ぶ」「インプットとアウトプット」を意識しながら授業を実施していくことを確認し合ったと「補習校協育」第10号でお知らせしました。週に1回の授業ですが、教師の働きかけで子どもたちの授業中の様子も変わってきています。

6月14日のL1校中等部の数学の授業では、一次関数の学習をしていました。問題文から表を作成し、グラフにかいてから一次関数の式で表しました。まずは、個人で問題解決をし、その後ペアになって、どうしてそのような式を作ったのかを相手に分かるように説明し合いました。説明を聴く生徒も「うん、うん。そう、そう。」などと頷きながら聴いており、感心させられました。さらに、学級全体で一人の生徒が説明し、また別の生徒が自分の言葉で説明しました。数学の学習内容を学ぶだけでなく、生徒たちは伝え方や聴き方も学んでいます。

教科の枠を越えてこのような学習経験を積むことで、「日本語を話す仲間と日本語で学ぶ補習校」に通う価値が高まります。生徒たちにも教師にも、粘り強くこの取組を進めてほしいと願っています。



L1校幼児部年長組の授業の様子も紹介します。梅雨の話教師から聞き「かさ」「長ぐつ」「かたつむり」「あじさい」「かえる」「てるてるぼうず」など、梅雨に関する言葉を集めました。

絵本を見て、雨の音を聴き、あじさいの花

のにおいや触感を確かめ、梅雨のイメージを膨らませた後は制作活動でした。完成した作品には、この時間にイメージしたそれぞれの梅雨が表現されていました。

